

2-2 高校生・高等専修学校生を対象としたカリキュラム

- 《指導方針》
- 障害の定義について理解させる。(ICFの学習)
 - 障害のある人の暮らしや働いている場所を見学し、障害のある人のための施設・設備や暮らしの工夫を知る。
 - 見学や交流をとおして、障害という個性を理解する。
 - 擬似体験をすることによって、それぞれの障害を理解し、自分の生活の姿勢や態度を見直してみる。
 - こころのバリアフリーという観点から、考えられるまちづくりの構想化を行う。
 - すべての人たちに対する思いやりの気持ちを育てる。

時数	指導内容	展開例	留意事項
1	障害者とは	ICFについて学ぶと共に障害者との共生の大切さについて把握してもらう。	厚生労働省のHPを活用しICFのポイントを整理して紹介する。
2	障害者権利条約について	国際人権法に基づいて作られたこの条約を学び、人権について考察させる。	障害者の権利について国際的な視野を持てるよう教材を工夫する。
3	障害者基本法	日本の障害者基本法について把握させると共に、このような法律が存在することを把握させる。	日本において障害者に対する法整備がなされてきた点を把握させる。
4	障害者差別解消法	障害者差別解消法を学ぶと共に、障害者権利条約を批准するうえでいかに大切な法律であるかを把握させる。	障害者差別解消法に関して要点を把握できるよう教材を提供する。
5	福祉の環境、地域の様子	新聞や市報などを利用し障害のある人のための施設や設備の設置状況や、催し物などを調べ、積極的な参加を促す。	定期的に新聞や市報を活用し、市政などにも関心を持たせる。
6	共生について考察させる①	インターネットを利用し、福祉の現状をつかむ。	地域や社会福祉協議会などのホームページを活用させる。
7	共生について考察させる②	もっと改善できる点、行政や市民は何ができるのかを考える。	
8	職場・施設・暮らしの理解① 「活躍している障害のある人たち」	新聞、雑誌などのメディアを使って、障害のある人たちが活躍している活動を知る。(パラリンピック、芸術家、政治家 他)	障害を乗り越えて活躍する姿をとおして、心の強さに気づかせる。

時数	指導内容	展開例	留意事項
9	職場・施設・暮らしの理解② 「活躍している障害のある人たち」	インターネットなどのメディアを使って、障害のある人たちが活躍している活動を知る。	
10	高齢化社会の現状① 高齢者の日常生活について知る	高齢者の暮らしぶりや御苦労などを調査し日本の高齢化社会の現状を認識する。	少子高齢化社会の日本の現状を把握させる。
11	高齢化社会の現状② 雇用状況	高齢者の雇用に関して、企業の取り組み例などを調べる。	
12	高齢化社会の現状③	日本の高齢化社会の未来の展望を考察させる。	今すぐ自分でできることを考えてみる。
13	視覚障害① 「私たちができること」	二人一組で目隠しをして、校舎内外を回ってみる。(一人は目隠し、一人は介助者)	安全を確保し、視覚障害の方の苦労を実際に体験する。
14	視覚障害② 「私たちができること」	視覚障害のある人と一緒に走るときの伴走方法や、実際にまちなかで白い杖を持った方を見かけたときの介助方法などのビデオを見せて、自分たちに何ができるのか考え、バスや電車内などでの介助方法について学習する。	町で視覚障害の人を見かけた際、声をかけ、介助することができるように支援の仕方に気づかせる。
15	聴覚障害① 「補聴器をしている人」	補聴器という器具を知る。(どのような種類の器具があるか?)	
16	聴覚障害② 「手話体験」	簡単な手話を学ぶ。(実際に友人に自分の伝えたいことを手話を使って伝えてみる)	聴覚障害のある人と接するときに注意すべき点を考えさせ、支援の仕方を知る。
17	肢体不自由① 「車いす体験」	・ 班に分かれて、車いすに乗って校舎内外を回ってみる。 ・ お互いに車いすの介助と車いす体験をする。	安全に注意する。
18	肢体不自由② 「車いす体験」	支援の仕方やバリアフリー化のことを考える。	

時数	指導内容	展開例	留意事項
19	知的障害① 「ビデオ視聴」 僕とバディと	・ワークシートを記述し、自己の考えをまとめる。 ・こころのバリアフリーについて考える。	障害は身体だけでないことをわからせる。知的障害のマイナス部分だけを追うことのないようにする。
20	知的障害② 「ビデオ視聴」 僕とバディと	・ワークシートの内容を発表し、ディスカッションを行う。 ・今の自分たちに何ができるか考察する。	各自の障害者に対する考え方の変化を把握させると共に、共生に対する意識を向上させる。
21	ディスカッション① ・こころのバリアフリーとは ・理想のこころのバリアフリーとは ・理想のまちづくり	・グループディスカッションにおいてそれぞれの意見交換を行う。 ・次回の調査に向けての準備をする。オブザーバーとして地域の有識者に参加していただく。	意見の出やすいグループ編成によって行っていく。
22	ディスカッション② ・グループディスカッションと全体ディスカッションを織り交ぜて	・各地域の現状調査から不足点や今後の課題について、検討する。 ・障害の種別によってそれぞれの立場で考える。	いろいろな視点で探ってみる。
23	教室ディベート① 準備 『障害のある人と共にまちで暮らす』	・ディベートのルールをつかむ。 ・インターネット、図書館などで次回のディベートの資料作成およびグループミーティングを行う。	ディベートのルールを認識させ、次時に行われるディベートで自分の主張する立場に立った資料集めを行わせる。
24	教室ディベート② 『障害のある人と共にまちで暮らす』	・ディベートの資料を賛成派と反対派に渡す。 ・資料の活用方法およびディベートの展開を学ぶ。 ・ディベートを体験する。	自分の持っている意見だけでなく、他の考え方にも目を向けさせるようにする。
25	ボランティアとは	社会福祉協議会の方を招きボランティアの概念および、地域のボランティアの現状をつかむ。	ボランティアに対する基本姿勢などを把握させ意欲を引き出す。
26	「中学生こころの作文コンクール」の入選作品に触れる	・受賞作品集を活用する。 ・心に残った作文を1点選んでもらいどの点に感銘を受けたかまとめると共にプレゼンする。	自ら作文を書きたいといった意欲を向上させられるよう授業を展開する。

時数	指導内容	展開例	留意事項
27	「障害」に代わる言葉について考える	例文を紹介し、各グループにてディスカッションをさせる。	さまざまな視点で考察できるように資料を提供する。
28	こころの作文コンクールの5つのテーマからひとつ選び作文する	感銘を受けた受賞作品を例文として自己の考えをまとめる。	文字数など気にせずに各自のペースで作文させる。
29	まとめ① 共生をテーマとしたレポート作成を行う	レポートの形式を確認し、自己の検討事項と調査結果、および今後の展望をまとめる。	やらされているのではなく、やりたいといった気持ちを芽生えさせる工夫を行う。
30	まとめ② 研究発表会	これまでをとおして学んだこと、発見したこと、福祉政策について、グループ毎に発表し合う。	これまで学習してきたことを再確認すると共に、友人の考え方を知る。また、自分にできることを探す。